

クリスマス会



みんなでビンゴ
をしたよ～！

サンタになって
楽しんだよ～♪



ドラえもんや
🍩や♡の形の
風船を作って
もらったよ！



12月22日にクリスマス会が行われました。今年はコムハウス(すまいる班・こもれび班)・ねくすとそれぞれの企画で楽しみました！すまいる班はパフォーマーの Mr.ポテトさんをお迎えしてバルーンアートやマジックショー、こもれび班は4つのグループに別れて歌やダンス、寸劇などの出し物&サンタクロースからのプレゼント、ねくすとでは景品付きのビンゴ大会とお茶会を行い、なかまも職員も笑顔いっぱいの1日でした。

～この街に生きる～

「タテの発達、ヨコの発達」

障がいのある人の支援のひとつに就労継続支援 B 型がある。この事業は、作業所で働く障がいのある人の工賃(お給料)が高くなると、翌年度事業所に入る報酬額が高くなるという仕組みになっている。つまり、工賃が上がることが事業所の評価基準になっている。障がいのある人は工賃が上がり、事業所は報酬額が上がり、互いにうれしいことになる。工賃増は大事なとりくみであり、より高く、より上をめざす「タテの発達」は、私たちのよろこびでもある。ただ、こんな仕組みで本当に良いのだろうか。「振り落とされる人」が生まれまいだろうか。振り落とされる人に「わたし」がなるのではないだろうか。

一方で、なかなか自分の意思を伝える事ができなかった人が意思を主張できるようになったり、ご家族の介助でしか食事をしなかった人がスタッフの介助で食事ができるようになったり等、工賃には反映されないが、関係性が広がったり、生活の幅が広がったり、笑顔が増えたりする事は、人が生きていく上でとても大事な豊かさではないだろうか。数値では測れない大事な変化を「ヨコの発達」と呼ぶ。それは、そこで関わるスタッフの丁寧な人を大事にする配慮があつて叶う事だと思う。なぜなら、人は「伝えたい」と思う相手だから自分の意思を表明したくなり、安心感を持てる相手だから「食べる」という生きるために最も不可欠な行為を他者に委ねることができるからだ。すなわち、人間的な関わり合いを礎にした「ヨコの発達」は時間を要する。効率性とは相容れない。そして無限である。

「より高く、より速く、より多く…」へと仕組みは求める、でもそれでは測れない、人の「横への広がり」と深みを大事にしたい。これは、ほかならぬ時代の求めではないだろうか。そんな事を、障がいのあるなかま達は私たちに教えてくれる。

常務理事 片桐政勝

「被災地に思いを寄せて…災害に備える事」

年が明け、ほっとする思いで元気に通所してきたなかま達の顔を見ました。例年通りの新年のスタートに安心した一方、能登半島では思いもかけない大きな地震に見舞われ、亡くなられた方、避難先などで大変な生活をされている方が大勢おられることに心を痛めています。障がいのある方のことも何度も報道の中に出てきますが、実態はあまり伝わらないまま。「もしここで…」と思うとまったく想像ができず、私たちに何が出来る？と問いかけます。今は被災した方たちが1日でも早く安心して生活できるようにと祈りつつ、今考えられる事を想定し、備えられる事をしておく、そして地域の方たちとの「繋がり」を大切に育んでいく事が大切だと改めて感じています。

コムハウス 施設長 百瀬 薫